

調査研究事業

「小学校自然体験活動モデルプログラム開発」

足柄小学校5・6年生 宿泊体験 IN サマー

平成21年7月27日（月）～7月30日（木）

（3泊4日）

モデル校 静岡県駿東郡小山町立足柄小学校



I 事業の背景

教育再生会議で、小学生の1週間の自然体験（集団宿泊体験）の必要性が提言された。それを受け平成20年度の文部科学省の施策「青少年体験活動総合プラン」において、「小学校自然体験プログラム開発」が計画されたことから、学校の教育活動として行う長期自然体験活動のプログラムの開発として本事業を実施した。

II 事業の概要

1 趣 旨

小学校と連携して長期自然体験活動モデルプログラムの開発に取り組み、その成果を研究支援事業で活用するとともに、小学校や公立青少年施設等に普及する。

2 参加状況

小山町立足柄小学校 5・6年生 51名 教育関係者 8名 計 59名

3 企画のポイント

(1) 企画のポイント

プログラム開発に当たり、企画の段階から、児童の指導に日ごろから当たっている学校関係者（学級担任等）並びにその保護者による企画委員会を設置した。委員会では、児童に「身につけたい力」は何か、そしてその「身につけたい力」を育むためのプログラムはどうするかを話し合い、施設職員との意見交換を通しプログラムを開発した。

(2) 運営のポイント

児童に、学校を離れた場所に来て宿泊体験をしていることを意識付けるため、施設職員が児童の指導に当たり、学校の教員はそのサポートに当たる指導体制とした。

4 実施状況・参加者の様子

【実施までの流れ】

- ① 平成21年2月5日（木）
5年生第1回保護者説明会
参加者：校長・教務主任・担任・当担当職員
5年生保護者
内 容：概要説明・活動日決定・実施までの流れ確認・企画委員確認・質疑応答
- ② 平成21年2月10日（火）
6年生第1回保護者説明会
参加者：協力校の保護者 内 容：同上
- ③ 平成21年5月15日（木）
保護者ニーズアンケート回収



【トーテムポール色付けの様子】

「わが子に身につけさせたい力」を調査。
その力をつけるためのプログラムの素案を
企画指導専門職が作成（保護者からの意見
参考）

- ④ 6月22日（月）企画委員会
参加者：PTA 会長・副会長2人・校長・教
務・学級・専門職2人
内 容：プログラム案を提示し、委員から
の意見・理解を得る。
- ⑤ その他、学校長・学級担任に随時準備に
関する進捗状況を伝えた。特に安全対策
面について理解と協力を得た。



【17人18脚の練習：位置について！】

⑥ 7月27日（月）～7月30日（木）（3泊4日実施）

- ねらい：宿泊体験学習を通して（1）協力・助け合いから生まれる団結力を養う。（2）思いやりの心を養う。（3）粘り強く、最後までやり通す心を養う。
- 概略：（1）木材を使用した製作物づくりを通して粘り強さ、協力、思いやりの心を育む。（2）団体競技に挑戦し、団結して取り組むことを通し思いやりとたくましい心を育む。
- プログラムの特徴：ねらい達成のため、以下の活動を全日実施した。
 - ・ 主な活動場所は、全員がひとつの部屋に眠れる場所を設ける。
 - ・ 食事は全食自炊とし、順番にグループで食事作りを担当し、みんなの分を作り合う。
 - ・ 校庭に設置する「トーテムポール」を共同制作し、粘り強く取り組み完成する。
 - ・ 17人18脚にチームが一丸となって取り組み、団結の喜びを味わう。

Ⅲ 成果と課題

1 成 果

保護者が活動中の児童の様子を見ることができなかつたため、自然体験を終えたわが子の変化を客観的に見ることができた。6年保護者は基本的な生活習慣にかかわる就寝時間が以前にくらべ早寝をするようになったことをあげている。5年保護者は身の回りの整理整頓をするようになった、無駄な電気を消すようになった、ごみの分別をするようになった、家の約束を守るようになった等多くの変化を感じ、日常生活での良好な効果をあげている。また、教師は、本事業のねらいの「助け合い」や「最後までやりぬく」こと、「思いやり」等良好の傾向にあることを感じ取り、交流の家職員と成果を確認することができた。

2 今後の課題

家庭と、学校、交流の家との連携で、長期自然体験活動が終了し、家庭に帰っても継続的に今回のねらいの意識を持ちつづけ、児童を育てていくことが重要であると考え。その体験の重要性を地域、学校、保護者が感じることで、より一層、長期自然体験活動の接近が図られると考える。

担当：企画指導専門職 土屋 行広・洲永 康弘